

No.107

一般社団法人 日本化学工業協会

# レスポンシブル・ケア ニュース

2024 夏季号



レスポンシブル・ケア®



5月24日

## 日化協 第33回定時総会

5月24日(金)、第33回日化協定時総会が開催されました。総会は、正会員数257名に対し、委任状を含め193名の出席の下で開催されました。

福田会長が議長を務め、下記議案について審議が行われ、いずれも異議なく原案の通り承認されました。

### 議案

1. 報告事項 2023年度事業報告および決算報告の件
2. 審議事項
  - 第1号議案 定款一部変更の件
  - 第2号議案 2024年度事業計画案及び収支予算案の件
  - 第3号議案 理事25名選任の件
  - 第4号議案 監事2名選任の件

開会にあたり、福田会長より、次のような退任の御挨拶がありました。2022年に会長に就任して以来、「カーボンニュートラル実現への一層の貢献」、「社会とのコミュニケーションの強化」、「操業と化学品管理の安全強化による安心の提供」を重点テーマとして、持続可能な社会の構築に向けた活動を推進してまいりました。特に、グリーントランスフォーメーション(GX)に関する取り組みについては、政府や化学企業の積極的な姿勢により着実に前進していますが、取り組みをさらに進展させるためには、GX製品市場の創出が不可欠であり、環境価値を認める社会が醸成されなければなりません。日化協では今後もさらに活動を深化させ、ソリューションプロバイダーとして社会から求められる価値を提供するため、化学産業の潜在力を発信し、イノベーションの社会実装の推進に尽力してまいります。今後ともご理解とご支援賜りますようお願い申し上げます。

### 議事

会議開催に先立ち、議長より、日化協独占禁止法遵守ガイドラインを確認し、適法で会議を運営することが宣言されました。次に議案審議に先立ち、議事録署名人2名の選出につき、議長に一任願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なくこれに同意しました。議長は出席した正会員の中から、長谷部 佳宏氏、並びに森川 宏平氏を議事録署名人に指名し、両氏はこれを承諾しました。

### 報告事項 2023年度事業報告及び決算報告の件

議長の指示により、進藤専務理事が、2023年度事業報告及び収支決算報告の各案は、5月8日実施の監事による監査を経て、5月13日開催の総合運営委員会、5月15日開催の審議委員会、5月17日開催の理事会において、それぞれ承認を得ている旨を報告し、資料1、資料2、及び別紙資料2に基づき、内容について説明を行いました。引き続き、監事を代表して藤井 政志監事が、5月8日に開催した監事会において、2023年度事業報告書、及び決算報告について監査をした結果、記帳等はいずれも正確であり、また経費の支出も適正かつ妥当であったことを報告しました。



### 第1号議案 定款一部変更の件

次に議長の指示により、進藤専務理事が、資料3に基づき、内容について説明を行いました。後、議長が本件原案どおり承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案どおり可決承認されました。

### 第2号議案 2024年度事業計画案及び収支予算案の件

次に議長の指示により、進藤専務理事が、2024年度事業計画及び収支予算の各案は、3月11日開催の総合運営委員会、3月13日開催の審議委員会、3月27日開催の理事会において、それぞれ承認を得て提案されたものである旨を報告し、資料4、資料5、及び別紙資料5に基づき、内容について説明を行いました。後、議長が本件原案どおり承認願いたい旨を議場に諮ったところ、全員異議なく原案どおり可決承認されました。

### 第3号議案 理事25名選任の件

次に議長の指示により、進藤専務理事が、定款第13条及び第18条第4項に基づき、理事25名の選任につき、1名ずつ候補者名を読み上げ、各候補者ごとに、議長より原案通り承認願いたい旨が議場に諮られ、全員異議なく、理事25名それぞれの選任が原案どおり可決承認されました。

### 第4号議案 監事2名選任の件

次に議長の指示により、進藤専務理事が、定款第13条及び第18条第4項に基づき、監事2名の選任につき、1名ずつ候補者名を読み上げ、各候補者ごとに、議長より原案通り承認願いたい旨が議場に諮られ、全員異議なく、監事2名それぞれの選任が原案どおり可決承認されました。

各理事・監事につきましては、日化協のHPを御参照ください。

<https://www.nikkakyo.org/about/members>

### 閉会

議長は以上をもって、一般社団法人日本化学工業協会第33回定時総会の全議事を終了する旨を述べ、議場にその協力を感じ謝し閉会を宣言しました。





## GXの取り組みを推進し、 サステナブル社会実現に貢献

一般社団法人 日本化学工業協会  
会長 岩田 圭一

化学産業は、社会に必要な製品を安定的に供給するエッセンシャル産業として、社会・経済の諸問題に対応していくことはもとより、カーボンニュートラルの実現を含むGX(グリーン・トランスフォーメーション)に貢献するソリューションプロバイダーとして、また、新たな環境価値創出の牽引役として、社会からの期待に応じていくことが求められています。

日化協では、こうした点を踏まえ、「GXの取り組み推進」「国際協調の推進」「安全・化学品管理の取り組みの着実な実施」の3点を重点テーマとして、活動を進めてまいります。

### 方針①

#### (1)「GXの取り組み推進」

日本の化学企業各社において、既にさまざまなGXの取り組みが進んでいるなか、日化協では、関連分野に関する政府の動向や世界の動きを注視していくとともに、カーボンニュートラルを見据えた技術動向、資源循環経済の推進といった観点に基づき、行政とも連携しつつ、2050年カーボンニュートラルに向けたロードマップを深掘りしてまいります。

また、カーボンニュートラル、循環型社会の実現にあたっては、巨額の設備投資や原燃料の転換など、相応のコストが伴うものであり、サプライチェーン全体での協業およびそれらを支える制度設計が求められます。とりわけ「環境価値」、すなわち製品の環境面での付加価値を、最終製品使用者である一般消費者をも含めて、広く受容していただける社会を醸成していくことが必要不可欠です。

そうした「環境価値」に対する理解を得ていくための一助として、いわゆる「見える化」、即ちGHG排出量や環境負荷への貢献を定量的に評価できるカーボンフットプリント(CFP)について、化学産業として取りまとめた算定ガイドラインを活用した普及活動を行ってまいります。また、リサイクル品についての社会認知を向上させ、化学品の循環利用を早期に実現することを目的に、リサイクル率確認登録制度の試験運用に取り組んでまいります。あわせて、こうした取り組みを通じて、化学産業の重要性や有益性を社会に発信していきたいと思っております。

### 方針②

#### (2)「国際協調の推進」

サステナブル社会実現に向けて、我が国のみならず、世界の化学産業共通の課題が顕在化するなかで、その解決にあたっては、国際協調をより推進していく必要があります。

化学品管理に係る国際的枠組み作りに向けては、国際化学工業協会協議会(ICCA)における活動を中心に、国際連携を図ってまいります。

また、プラスチック汚染終結に関する法的拘束力のある国際文書(条約)策定に向けた政府間交渉委員会(INC)への対応や、GFC(Global Framework on Chemicals)に基づいた化学品管理の体制構築に向けた、化学業界による具体的な行動計画作成の対応などにあたっては、引き続き、会員企業・団体の声を集約し、日本の化学産業の意見を積極的に発信してまいりたいと考えております。

### 方針③

#### (3)「安全・化学品管理の取り組みの着実な実施」

安全、化学品管理の取り組みは、申し上げるまでもなく、化学産業が存続するための基盤、大前提です。化学産業は、社会生活にとって不可欠な化学製品を、安定的に社会へ供給していく大きな責任を担っています。

保安防災については、特に、化学産業は、設備の高経年化や少子高齢化に伴う人手不足などの課題に直面していることを踏まえ、デジタル技術を駆使する体制の整備と、それを支える人材育成を支援することで、スマート保安導入の支援を行ってまいります。

物流安全については、危険物輸送に関する国際規制動向の把握など、これまでの取り組みを継続してまいります。あわせて物流適正化についても、2023年度末に策定した、『化学品に関する物流の適正化・生産性向上に向けた自主行動計画』の周知徹底・浸透を図ってまいります。

化学品管理の面では、引き続き、サプライチェーンと一体となった、リスクベースの化学品管理の普及に努め、安全・安心な化学製品を提供してまいります。

以上の三つの取り組みを中心に、当協会ならびに日本の化学産業の持続的発展のために誠心誠意努力してまいりたいと存じますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 日化協三賞 受賞各社の紹介

5月17日(金)、日化協安全表彰(安全最優秀賞・安全優秀賞・安全優秀特別賞)、日化協技術賞(総合賞・技術特別賞・環境技術賞)、日化協レスポンシブル・ケア賞(RC大賞・RC審査員特別賞・RC優秀賞)の本年度受賞者が決定しました。各賞の受賞者は以下の通りです。

## 第48回 日化協安全表彰



安全最優秀賞を受賞した(株)レゾナック彦根川瀬事業所

### 【安全最優秀賞】

- ・株式会社レゾナック 彦根川瀬事業所

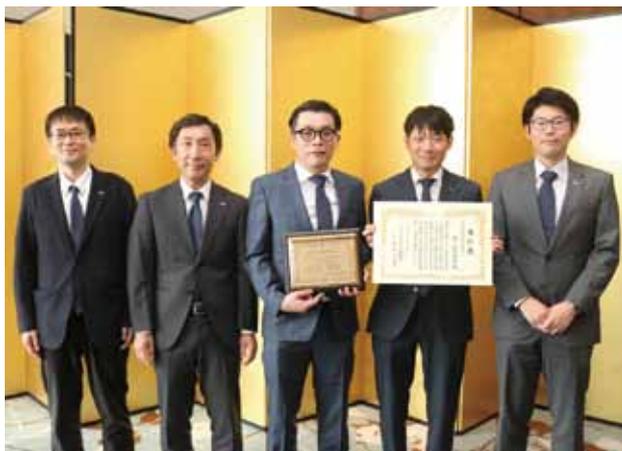
### 【安全優秀賞】

- ・東レ株式会社 岐阜工場
- ・花王株式会社 豊橋事業所
- ・旭化成建材株式会社  
建材生産センター ネオマフォーム工場
- ・JNCファイバース株式会社 守山工場
- ・JNCフィルター株式会社 守山事業所

### 【安全優秀特別賞】

- ・サンアロマー株式会社 研究開発本部

## 第56回 日化協技術賞



総合賞を受賞した東レ(株)

### 【総合賞】

- ・東レ株式会社  
「複合紡糸技術「NANODESIGN (ナノデザイン)」の  
開発と工業化」

### 【技術特別賞】

- ・日本ゼオン株式会社  
「シクロペンタノン新製造法の開発と5員環ケミカル  
ビジネスの構築」

### 【環境技術賞】

- ・日本ペイントマリン株式会社  
「次世代型加水分解船底防汚塗料「FASTAR」の開発」

## 第18回 日化協レスポンシブル・ケア(RC)賞



RC大賞を受賞した旭化成(株)延岡支社

### 【RC大賞】

- ・旭化成株式会社 延岡支社  
「『安全な設備づくり』に向けた機械安全活動の推進」

### 【RC審査員特別賞】

- ・花王株式会社 SCM部門  
「安全・安心の醸成に向けた地域社会とのリスクコミュニ  
ケーション」
- ・三菱ガス化学株式会社 山北工場  
「地域に根差し共生する取り組み  
～ 継続的なコミュニケーションと貢献～」

### 【RC優秀賞】

- ・三井化学サンアロイ株式会社  
「工場基盤の更なる強化を目指した全社員による活動」
- ・DIC株式会社化学物質取扱管理改善WG (略称CSWG)  
「化学物質取扱い管理体制の改善」

# 第18回 日化協レスポンシブル・ケア賞 受賞各社の活動概要

第18回日化協RC大賞・審査員特別賞・優秀賞を受賞された各社の活動概要を紹介します。

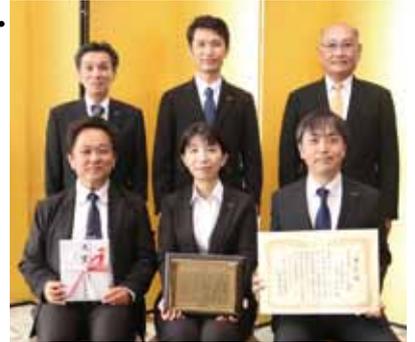
## RC大賞

旭化成株式会社 延岡支社

### 『安全な設備づくり』に向けた機械安全活動の推進

旭化成延岡支社(25工場)では、挟まれ巻き込まれ労災を根絶するため、2018年度にリスクの高い6工場が「既存設備機械RA」と「機械安全人材育成」を開始した。2021年度から新たな10工場が加わり、現在16工場で取り組みを進めている。さらに2024年度から2工場加え18工場で推進していく計画である。

「既存設備機械RA」は、工場と社内・外専門家が連携して設備を改善する成果を挙げ始めた。また現場にある危険源を取り入れたモデル機を製作し、実践研修によって技術基準の理解を深め、危険源をみつけることができる人材を育成している。



## RC審査員特別賞

花王株式会社 SCM部門

### 安全・安心の醸成に向けた地域社会とのリスクコミュニケーション

和歌山工場は市街地と隣接しているため、近隣住民を含め工場内外の全ての人の安全を第一に、長年行政や地域とのコミュニケーションを積み重ねてきている。より安全・安心で信頼される工場になることを目指し、今回は所轄消防局との化学物質漏洩リスクコミュニケーションに挑戦した。この活動から得られた「漏洩量の最小化」対策により近隣住民への健康被害を最大限に防止することができる。さらに所轄消防局と化学物質漏洩の勉強会を開催して、「影響範囲の極小化に向けた行動要領」を確立したことで、事故発生時の迅速で確実な初動対応の強化に繋げることができた。



## RC審査員特別賞

三菱ガス化学株式会社 山北工場

### 地域に根差し共生する取り組み ～継続的なコミュニケーションと貢献～

神奈川県西部にある緑深い丹沢の山々に抱かれた山北町において地域との共生を営んでいる当工場は、地域との共生、信頼の継続が使命であり、無事故・無災害はその前提であるとしてRC活動に注力している。

町や自治会行事への参加と支援として、地元の祭礼・自治会行事への参加、体育館・グラウンドなどの工場施設の開放を30年以上にわたって実施するとともに、地元加盟団体へ参加により、環境保全と安全への取り組みに貢献してきた。

最近では、社会への変化に応じ、生物多様性、フードドライブ支援にも取り組んでいる。



## RC優秀賞

三井化学サンアロイ株式会社

### 工場基盤のさらなる強化を目指した全社員による活動

三井化学サンアロイはグローバルに展開する三井化学グループのモビリティコンパウンド事業のマザー工場であり、国内外の業務に対応できる人材の育成、及び製品を安定生産・供給する使命を有している。

本テーマは、これまで自社で培われた技術や知識、そして様々な失敗から学んだ教訓を次世代に繋げ、マザー工場の機能をより強固なものとするために、全社員が一致団結して「匠の伝承」「普遍化」「意識変革」をキーワードに、種々データの一元化・見える化による改善に取り組んだ活動である。



## RC優秀賞

DIC株式会社 化学物質取扱管理改善WG(略称CSWG)

### 化学物質取扱い管理体制の改善

DICでは、化学物質による労働災害ゼロを目指し長年取り組んでいる。化学物質の自律的管理を実現するためDIC国内グループの化学物質の取扱い管理規程を新規規定、管理ワークフローの明確化を行った。また、キーマンになる化学物質管理者等を各部署に配置するため、当社ガイドラインやリスクアセスメント手法をまとめた教育を内製化した。これによりDIC国内グループで化学物質の適正な管理ができる体制を構築した。こうした活動は2022年全国産業労働安全衛生大会でご紹介しており、弊社への理解を深めていただく一助ともなっている。



# 日化協安全表彰 受賞事業所の紹介

2024年第48回日化協安全表彰を受賞された各事業所の概要、安全活動の特徴、今後の取り組み等を紹介します。



## 安全最優秀賞

株式会社レゾナック  
彦根川瀬事業所



### ◆事業所の概要

当事業所は、合成樹脂を中心とした製品を製造する事業所として1961年に操業を開始しました。操業当初の電子材料製品・樹脂成型品の製造から、現在は樹脂成型品を軸とした自動車関連部品の開発・製造の拠点となっています。

### ◆安全活動の特徴

ハード面の改善として、2000年から設備の本質安全化を進めた結果、設備起因による災害発生を大きく低減することができました。ソフト面では2010年より管理監督者・一般従業員全員がより一層安全について腹落ちできる教育プログラムに見直し活動してきました。並行して、安全に関する情報発信元となる「安全道の駅」の設置、構内に従業員が決めた「みんなの笑顔満開安全ヨシ！」のスローガン掲示など意識高揚の活動を行ってきました。2023年からは「指摘型巡視」からコミュニケーションを重視した「対話型安全巡視」を実践し、従業員の声ダイレクトに事業所の安全・衛生活動に反映できる仕組みとしています。

### ◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

弊社は、安全衛生ポリシーを『安全はすべてに優先する』とし、『全ての災害は防ぐことができる』という信念のもと事業活動を推進しています。「対話型安全巡視」への転換や、「褒める文化」の醸成、危険体感教育等のさまざまな安全意識高揚施策をご評価頂いた結果、本賞を受賞できたことは大変光栄に存じます。今後も、「笑顔で出勤し、笑顔で帰宅」できる安心安全な事業所となるよう、従業員と共にアイデアを出し合いながら安全活動を推進してまいります。



## 安全優秀賞

東レ株式会社  
東レ岐阜工場



### ◆事業所の概要

1971年に操業を開始し、東レが世界で初めて開発したスウェード調人工皮革「ウルトラスウェード®」と、東レが日本で初めて工業化した二軸延伸ポリエステルフィルム「ルミラー®」をはじめとするフィルム設計・開発および製造を行っています。

### ◆安全活動の特徴

平成元年に発生した重大災害以降、危険箇所からの隔離と言った「設備の本質安全化」でハード対策を進める一方で、安全な作業方法の追求と作業教育による作業統一・徹底、更に危険を危険と感じる感受性の醸成をソフト対策として推進しています。また管理者の覚悟と責任の下これらをトップダウンで強力に実行すると共に、作業者目線からの作業改善などのボトムアップも行っています。この4つアプローチを軸として活動を推進し、安全文化の形成を図っています。

### ◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

諸先輩方が築いてこられた安全文化を継承しつつ、さまざまな取り組みを通して安全の基本を徹底・実行し、更なる安全な職場・「誰もケガをしない、させない、働きやすい工場」を目指して、工場働くメンバー全員一丸となってゼロ災継続を実現していきます。



## 安全優秀賞

花王株式会社  
豊橋事業場



### ◆事業所の概要

当事業場は、1981年に鋳物用樹脂の製造工場として操業を開始し、現在はスキンケア・ヘアケアをはじめとする家庭用製品の生産に注力しています。昨年、豊橋コネクテッド・フレキシブル・ファクトリー構想の一環として新自動車庫を導入しました。生産量の年々増加に合わせ、多様な言語や文化を持つ従業員が協力しながら働いているのも大きな特徴です。

### ◆安全活動の特徴

当事業場では、工場長の率先したリーダーシップにより、協力会社を含む工場働く全ての方に、安全意識を深く根付かせるための取り組みが行われています。その一つが「安全職場へようこそ」活動で、毎朝工場長自らが事務所に立って従業員・協力会社とのコミュニケーションを実施しています。その他、定期的な安全パトロールや安全教育、そして従業員や協力会社問わず善行を表彰する制度は、当事業場の安全性を高める上で不可欠です。また、多言語による注意喚起や識別色の使用なども含め、これらはすべて協力会社との協同により、安全記録の向上はこれらの努力が実を結んだ結果です。

### ◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

私たちは「パーフェクトゼロ」(すべての労働災害、火災、爆発、漏洩、通勤災害がゼロ)を目標に掲げ、様々な活動を通して質の向上を続けていきます。対話と信頼のもとに築いた関係を生かし、協力会社からの改善提案を積極的に取り入れ、安全かつ安心な職場環境を共に作り上げるための活動を、さらに従業員に浸透させていきます。



## 安全優秀賞

旭化成建材株式会社  
建材生産センター ネオマフォーム工場



### ◆事業所の概要

当工場は、高性能断熱材「ネオマフォーム」の製造工場として2000年に完成、第1系列で操業を開始しました。2014年には第2系列を増設して生産を開始し、当社唯一の製造拠点として全国へ同材を供給しています。

### ◆安全活動の特徴

当工場では2007年の休業災害を教訓に安全対策を順次強化し、特に設備・意識・知識の3つの視点で強化を図りながら、リスクアセスメント検討会による設備安全対策の推進、労働安全・保安防災等の安全教育を通じた従業員の知識向上、フラッシュKYや基本安全行動順守による安全意識定着を継続してきました。また近年では、“Face to face面談”による従業員の要望やその対応を実施し、風通しの良い職場風土づくりを通じて無災害の継続が実現できていると実感しています。

### ◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

現在の安全活動である設備・知識・意識の安全レベル向上を図りつつ、“安全が全ての前提”として安全・安心操業に努めていきます。また上司と従業員の対話に加えて職場横断的な安全活動やイベントにより、工場関係者全員の一体感を醸成、“風通しの良い安全風土”へ進化させ、無災害を持続させていきます。



## 安全優秀賞

JNCファイバース株式会社 守山工場・  
JNCフィルター株式会社 守山事業所



### ◆事業所の概要

同敷地内のJNCファイバース(設立1963年:熱接着性複合繊維およびエアスルー不織布の開発・製造)と、JNCフィルター(設立1995年:液体用カートリッジフィルターの開発・製造)の2社は、合同で労働安全を含むレスポンシブル・ケア活動行っています。

### ◆安全活動の特徴

JNCのモットーである「安全常に」(安全はすべての活動の源泉であり、かつ普遍的で不断のものである)をもとに、「安全常に品質第一にやさしく」を工場モットーに定め安全活動を展開しています。当社製造現場には多くの加工設備が存在し、特に回転体への「挟まれ・巻き込まれ」リスク削減に重点を置いて取り組んできたことが特徴です。また、従業員・協力会社が参加する「安全を考える会」は約半世紀にわたり全国労働安全週間に合わせて開催を続けており、工場で働くすべてのひとが安全操業に対する想いを新たにする機会となっています。

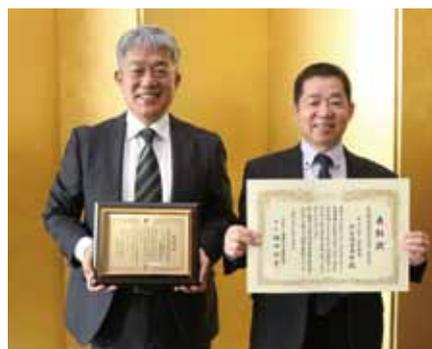
### ◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

2017年度を最後に休業災害以上の災害は発生していませんが、微傷災害の発生も無い「完全無災害」を連続して達成するには至っておりません。すべてのひとが「あたりまえ」のこと(安全のためにあるべき姿・行動)を「あたりまえ」にできることが企業文化として工場に定着することを目指します。



## 安全優秀特別賞(研究所)

サンアロマー株式会社  
研究開発本部



### ◆事業所の概要

当社は株式会社レゾナックとENEOS株式会社の合弁会社として1991年に発足し、ポリプロピレン樹脂の製造・販売を行っており、研究開発本部はその材料設計・用途開発などを行っています。

### ◆安全活動の特徴

職場の活動は、「安全衛生推進会議」と「グループ安全会議」を中心に、全員参加で「安全に実験や測定ができる環境」を整えることを目的としており、トップダウンと自主活動の両輪で推進され、日々のコミュニケーションを通じて実施しています。現場で働く研究員や作業員一人ひとりが、危険に対する気づきを共有するための仕組みとして、毎日の朝会、ヒヤリハット報告(表彰)、安全パトロール、5S活動を行っています。

### ◆今後の(安全活動の)取り組みや意気込みなど

発足時からの休業災害ゼロを絶やさぬよう、仕組みを継続的に改善し、以下の重点項目への取り組みを通じて、全員が安心して働ける環境の実現と研究の生産性向上に繋がりたいと考えています。

①教育・訓練の充実(新しいリスクや安全対策の教育、実践的な訓練による緊急時対応能力の向上)、②コミュニケーションの促進(ヒヤリハット報告の共有を促進、迅速に対応と改善策を実施)、③環境改善の継続(安全パトロールで問題点を早期に見・対処。5S活動で常に整理整頓された職場環境を維持)、④新規規程の導入(テクノロジーを活用した安全管理システム導入)

# レスポンスブル・ケアニュース Index

No.107  
SUMMER

|                                                         |   |
|---------------------------------------------------------|---|
| 5月24日 日化協第33回定時総会                                       | 2 |
| 会長挨拶                                                    | 3 |
| 「GXの取り組みを推進し、サステナブル社会実現に貢献」<br>一般社団法人 日本化学工業協会 会長 岩田 圭一 |   |
| 日化協三賞 受賞各社の紹介                                           | 4 |
| 第17回 日化協レスポンスブル・ケア賞 受賞各社の活動概要                           | 5 |
| 日化協安全表彰 受賞事業所の紹介                                        | 6 |
| RC委員会だより                                                | 8 |

## RC委員会だより

☆会員動向 (会員数：121社 2024年7月末現在)

入会

▶セラニーズ株式会社(4月1日付)

☆行事予定

9月7日 なぜなに? かがく実験教室(科学技術館)

9月24日、25日 RCLG定期会議(ポゴタ/コロンビア)

### 表紙写真の説明

#### 瀬戸内の紺碧の空に映えるプラント

岡山県西端の笠岡湾干拓地の一角に位置するJFEケミカル(株)西日本製造所笠岡工場。1987年の稼働開始以来、製鉄工程で発生する副産物を原料に、JFEケミカルの主力工場として、各種産業に必須な高品質な中間原料を安定生産しています。

JFEケミカル株式会社提供

### 編集後記

今年も6月から異常に暑い日が続いています。とうとう夏の高校野球は、7回制の検討を始めたとのこと。さすがに気温が40度を超えるようでは、野球どころではないということでしょうか。ところで、甲子園にもドーム化の構想があったことを御存知でしょうか。2003年に隣接する甲子園阪神パークが閉園した際、その跡地に建て替える案があったそうです。当時は今ほど温暖化が顕著ではなかったため、巨額の費用の前に立ち消えとなったそうですが、今となっては後の祭り。高校野球が甲子園を去る日も遠くないかもしれません。

RC NEWSのバックナンバーは、以下のアドレスにてご覧いただけます。

▶ <https://www.nikkakyo.org/organizations/jrcc/rc-news-page>

